

意見陳述書（原告 67）

まず初めに、今原告としてこの場に居る私は、高校2年生の時から今日までの7年間、一度も朝鮮学校の高校無償化適用を諦めたことがないこと、そしてその間私たちの声は日本政府に届いていないこと、一刻も早く、善良な人としての目を持ち、この問題を判断していただきたいことをお伝えします。

私は今、母校である九州朝鮮中高級学校で教師をしています。朝鮮人としての私を育ててくれ、たくさんの大切な仲間と出会った、大好きな朝鮮学校で教師になることは学生時代からの夢でした。学生時代は教師になるために勉学に励み、生徒会活動や部活動も積極的に行いました。学生時代に取得した資格や社会性は、日本学校と比較しても劣っていないと思います。

私が高校無償化問題と直面したのは、前述した通り高校2年生になる時でした。マスコミですべての学校に無償化が適用されると聞き、家族や友達と喜んだのは束の間、すぐさま私達を通う朝鮮学校のみ除外されると聞き、喜びは全て悲しみと怒りに変わったのを今でも覚えています。

政治的問題を子どもの教育に結び付けなければならないのか、私達には学ぶ権利はないのか、日本国民としての義務は果たさなければならないのに国民としての当たり前権利はもらえないのか、など思うことは沢山ありました。

私は、卒業までの2年間、署名活動や集会でのスピーチなど、子どもなりにできることをやりました。大好きな朝鮮学校がなくならないように、自分の夢を叶えられるように、後輩たちが嫌な思いをしないように、同級生や先輩、先生方と闘い続けました。しかし、私たちの思いは日本政府に届かないまま高校を卒業しました。

高校卒業後は、東京の大学に進学し毎日勉学に励み、部活動やアルバイトをしながら朝鮮高校出身者とはもちろん、日本の友人とも仲良く過ごしました。そんなある日、母校である九州朝鮮中高級学校の生徒たちが原告になり、裁判をすると聞きました。私はすぐに自分も原告になろうと思いました。

卒業して九州に居なくても、無償化問題は私自身の問題ですし、朝鮮人差別であり、必ず正しい方向へと向かわなければならないものだと思ったからです。

東京にいる間も抗議活動を行いました。文科省前で声を張り、児童の権利条約や国際人権規約などに反しているこの差別を訴えました。しかし、集めた署名も、叫び続けた声も、日本政府に届かないまま、大学を卒業しました。

そして今、母校である九州朝鮮中高級学校で教師をしています。

私の担当は高校ではなく、中学です。担任しているクラスの生徒たちは、いつも元気で活発で、素直でとても可愛い子たちです。行事があれば全力で挑み、試験期間は全員一緒に目標点を達成しようと助け合います。元気がない子にはすすんで声をかけるなど、クラスにはいつも笑いが絶えません。

私が担当するクラスは、日本の小学校からの編入生を3人迎え入れました。皆、福岡県外に住む生徒たちです。3人の編入生は1日でも早く周りの生徒たちのように朝鮮語を話し、朝鮮の歌を歌い、朝鮮語で自分の気持ちを伝えようと一生懸命朝鮮語の勉強をしています。

また彼らの保護者も皆、朝鮮人として立派に我が子を育てるために寮に入れてまで朝鮮学校に通わせています。私はその思いを受け止め、民族的アイデンティティーを持った上でこの日本社会を生き抜く力を育てようと日々の教育に取り組んでいます。

中学生の彼らは、担任である私に、昨日見たテレビの話、授業で褒められた話や友達と喧嘩した話、恋愛相談、将来の話など、色々な話をします。彼らは、ただ日々の学校生活を楽しみ、夢を持って生きています。日本学校の生徒と変わりません。なのに、このままだとこの中学生たちまで不当な差別を受けることになります。

日本政府の外交政策の一環としての、朝鮮学校差別を何の罪もない生徒が受けるのです。

日本政府は全ての意志ある高校生が勉学に励めるよう、経済的負担を軽減する為に高校無償化制度を導入しているにも関わらず、政治的理由で朝鮮高校のみを除外しています。また昨今では、全国の朝鮮学校への補助金が廃止になっていくなど、教育問題に全く関係ない国交問題に関連づけています。

日本政府が行っているこの高校無償化問題や補助金廃止問題は完全なる差別です。これから国際社会を担っていく子供たちに、いつまでこんな差別を繰り返すのでしょうか。

子供たちは今も勉学に励みながら、日々この繰り返される差別と闘っています。彼らは政府の差別により自分たちの存在意義を疑い、家族の経済状況を心配し、朝鮮学校を離れていったりもします。私たち朝鮮人は何のために何を学び、今後何を活かしていくべきなのでしょう。

私は、朝鮮人だからこそ日本社会の中で民族的アイデンティティーをしっかりと確立する為、祖国の言葉や文化、歴史を学ぶべきだと思います。今後日朝友好の懸け橋となる為に、日本語や日本の歴史も学び、社会に貢献できるのは、朝鮮高校の卒業生だと思います。

そんな可能性に満ちた生徒たちの夢、希望を奪わないでください。

政府の無償化除外差別の本質を見極め、罪のない子供たちを傷つけないでください。

私は一日でも早く朝鮮高校に無償化が適用されることを強く願っていますし必ず適用されると信じています。可愛い生徒たちが、私たちと同じ思いをしないように、この願いが届く日まであきらめずに闘い続けます。

最後に、子供たちのために、善良な判断となることをお願いして意見陳述を終わります。